

製造
身
正 パ

株式会社 牧機械製作所

障害のある方が長く活躍できる職場環境を



社員の声



谷 秀夫さん
(入社:平成7年4月)

今の職場で定年まで頑張りたい

・仕事内容

車のハンドルの部分をつなぐ部品の加工をしています。私は手に障害があるため、以前、ある作業を行うのに時間がかかって困っていました。その時に、私がスムーズに作業を進められるよう、会社の人たちに自分専用の片手でも扱える治具を作ってもらったため、とても助かっています。

・仕事に対する思い

入社してから19年間、一貫してこの仕事を続けています。これだけ長く仕事が続けられているのは、楽しく仕事のできているからだと思っています。会社には車好きな人も多く、私自身も車が好きなもので、休憩時間などは車の話で盛り上がっています。また、自分の作った部品が実際の車に使われていると思うと嬉しくて、道を走っている車をついで追ってしまうこともあります。

・障害者雇用を考えている事業所へ

障害があったとしても、活躍できる業務はどの企業にも必ずあると思います。まずは実習などで障害のある方を受け入れ、一緒に働くことにより、「こんなにできるのか」と思ってもらえると思います。障害者雇用に対して前向きに取り組んでいただきたいと思います。

社員の1日のスケジュール

障害のある社員4名のうち、身体障害のある谷さんの仕事の様子を紹介します。

8:00 ● 始業

朝礼を行い、1日の作業の流れの確認と、品質、安全に対する意識の高揚を図ります。

8:05 ● 作業開始

自動車部品の材料となる鉄材の切断補助作業を行います。(検査治具による全長確認及び外観検査)

12:00 ● 昼食

休憩室で他の社員と一緒に談笑しながら昼食をとります。

12:50 ● 作業再開

鉄材の切断作業の続きを行います。生産の進捗状況により、他の社員のサポート、梱包作業を行います。

17:00 ● 退社

担当した作業場の清掃を行い、退社します。



■検品
計測用の道具を使用して、加工された鉄材の検品を行います。



■梱包
切断された材料を、指定された数量ずつトレイの中に梱包します。



■部品の切断
切断用の機械に材料を投入し、決められたサイズに切断していきます。

雇用の際しての取り組み

特別扱いをしない

「障害がある方だから」という理由で、一から十まで会社がサポートする必要はないと考えています。なぜなら、過剰なサポートは障害のある方自身の「甘え」になってしまう可能性があるためです。一人の社会人として、しっかり自立して生きていけるようになってもらうためにも、特別扱いをすることなく接していくことも大事だと思います。



障害のある社員が働きやすい環境へ

障害のない社員が普通にできる作業でも、障害によってはできないこともあります。企業は、障害のある社員が働けるように環境を整備する責任を負っていると思います。当社では、手に障害を持つ方には片手で扱える治具を製作し、また、聴覚障害のある社員には筆談でのコミュニケーションや、作業手順を紙に書いて掲示するなど、彼らの働きやすい環境作りを常に意識しています。



賃金水準の改定

障害者雇用を始めた当初は、賃金の低さが原因で障害のある社員が職場に定着しないケースがありました。そのため、当社の場合は、社員の仕事内容に大きな違いがないこともあり、障害の有無に関係なく同等の賃金で雇用を進めていきました。これにより、働くことに張り合いが出て、仕事に対する意識が向上したと思います。また、御家族からの感謝もあり、結果として長期雇用につながっていると思います。



できるまで何度でも教える

障害のある社員に、仕事内容や社内でのマナーについて指導した際、一回では理解してもらえないことがよくあります。教えてもできないと考えるのではなく、理解できるまで何度も教え、やらせてみて、できたかどうか確認することが大切になります。できるまで教えることにより、当社では怪我の危険性のある仕事や、品質管理の仕事など、障害のない社員でもプレッシャーのかかる仕事も彼らに任せられるようになっています。



事業内容

株式会社牧機械製作所は昭和14年に創業し、旋盤機器開発、各種金属加工から出発しました。以来、自動車部品の中核とも言えるステアリングシャフト、トルクセンサーシャフト(電動パワーステアリング)、スライドドア軸、モーター軸、鍛造ヨークなどの精密加工を行っています。また、平成20年12月には第3工場を開設し、新規事業の展開も視野に業務拡大に向けて取り組んでいます。



障害のある社員の業務内容

- ・部品の切断・加工
- ・検品補助



障害者雇用を検討される事業所のみならずへ

障害のある方と企業、それぞれが理解し合うことが大切です



第一製造課 課長
斉藤 栄一さん

イメージで判断をしない

障害者雇用に向きではない企業は、障害のある方を「イメージ」だけで仕事ができないと判断している傾向にあると思います。そのため、実際に会う機会やお話を聞く機会を持ち、障害特性について理解できれば、雇用に向けて前向きに動き出せると思います。例えば、聴覚障害があっても、コミュニケーション方法を工夫すれば障害のない社員と全く変わらずに仕事が

できる方もいますので、まずは障害のある方と接し、「できること」を理解し、「合った仕事」を考えることで、障害者雇用への道が開けていくのだと思います。

信頼関係を築く

日頃のあいさつや困った時は相談に応じるなど、日々のコミュニケーションの積み重ねにより信頼関係を築くことができれば、障害のある社員は企業の期待に応えるために一生懸命働いてくれると思います。

■事業所データ

設立 1939年(昭和14年)
常用労働者数 153人
代表者 代表取締役
牧 正敏
所在地 〒371-0854
群馬県前橋市
大渡町2-1-12

TEL:027-251-3425
URL:www.makikikai.jp



■会社概要

昭和14年に個人企業として工作機械製造工場を創業。昭和35年から自動車部品及び精密機械の製造を開始しました。

■障害のある社員の雇用状況

障害のある社員数 4人
うち重度障害のある社員数 3人

区分	身体	知的	精神
正社員	3人		
契約社員			
パート	1人		
アルバイト			